

実施報告書

HT25139

医療現場で役立つやさしいデジタルデザインとイラストレーション表現
ワークショップ



(フォローアップの様子)

開催日	平成25年 7月14日(日) 平成25年10月13日(日)
実施機関 (実施場所)	名古屋造形大学 (D棟309)
実施代表者 (所属・職名)	渡邊 敏之 (造形学部・教授)
受講生	7/14=高校生 13名 10/13=高校生 10名
関連URL	http://www.nzu.ac.jp/news/news2013/1235/ http://www.nzu.ac.jp/blog/digital/archives/date/2013/10/13

【当日のスケジュール】

11:10~11:30	【受付】 Dギャラリー前
11:30~11:50	【開会式】 あいさつ、オリエンテーション、科研費の説明
11:50~12:50	【講義】「患者さんにやさしいデザイン(講師:渡邊敏之)」 ★レクチャー ★スタートアップトレーニング
12:50~13:50	【ランチタイム】 多目的ホール ★スタートアップトレーニング のフォローアップ(答あわせ)
13:50~14:35	「特徴をとらえたイラスト表現手法」 【ワークショップ①】 具体的なモノ・コトのアイコン化
14:35~14:45	【クッキータイム】 各班でクッキータイム
14:45~15:30	【ワークショップ②】 抽象的な事象のアイコン化
15:30~15:45	【アンケートタイム】
15:45~16:00	【閉会式】 修了証書授与・あいさつ・記念撮影
16:00	【終了】

【プログラムを留意・工夫した点】

- 医療とデザインという一見つながりが見えにくい分野の為、高校生に興味を持ってもらえるようにレジュメ・配布資料等を工夫した
- 高校生2~3人に対し、実施協力者(大学生)を2名配置し、気軽に質問しやすい雰囲気をつくった
- 伝えることの難しさとおもしろさを実感できる様に、レクチャー・スタートアップトレーニング・フォローアップを経て、グループワークに入った。フォローアップでだいぶ打ち解け、グループワークでの活発な活動につながった

【事務局との協力体制】

- プログラム全体の取りまとめは学務課で行い、プログラム実施の準備段階～終了まで実施代表者・分担者と協力して、プログラムの運営にあたっている

【広報活動】

- 愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会・中日新聞社へ後援を依頼し、許可された
- 中日新聞社からは、7月14日に取材が入り、本プログラムを地域に対しても広めることができた
- 高校や高校生への周知に関しては、入試広報課が全面的に協力し、東海3県の高校・高校生へプログラムの紹介・高校生募集に努力した

【安全配慮】

- プログラム全体と特にワークショップにおける安全確保に配慮した
- 受講生に対し、大学で一括して保険に加入し、不足の事態に備えた
- 高校生2～3人に対し、実施協力者(大学生)を2名配置し、目が届く様に配慮した

【今後の発展性・課題】

- イラストレーションの表現手法を体験しながら、社会の様々な場面でのデザインの役割について考察することで、「(医療分野も含めた広い意味での)社会とデザイン」の新たな関係を理解できる
- アート・デザインにそんなに関心がない学生にも参加を促したいが(例えば、医療系への進学希望者等)、実際には難しい(双方向からアプローチすることは研究の発展に必要不可欠である)

【実施分担者】

外山 貴彦 (造形学部・准教授)

【実施協力者】 11 名

【事務担当者】

安井 沙織 (学務部学務課・書記)